

高峰秀子没後10年

高峰秀子が愛した12本の映画

おしどり夫婦として知られる高峰秀子さんと松山善三さんは、小豆島を舞台にした不朽の名作『二十四の瞳』の映画ロケが縁で結ばれました。二人に幸せをもたらしたこの小豆島に、平成29年、夫妻の養女で文筆家の斎藤明美さんより、夫妻の遺産の一部が寄贈されました。小豆島町では、ご夫妻を顕彰し、また映像作品の素晴らしさを内外に発信するための基金を設立、さまざまな事業を展開しています。



©1954 松竹株式会社

上映場所 ギャラリー松竹座映画館
観賞無料 (但し、二十四の瞳映画村入村料は要)
上映時間 9:00～映画『二十四の瞳』を上映
 11:40～「高峰秀子が愛した12本の映画」を上映
 ※終了後、映画『二十四の瞳』を再び上映します。

二十四の瞳 1954 / 156分 / 松竹 / 白黒 / スタンダード
 【監・脚】木下恵介【原】壺井栄【撮】楠田浩之【音】木下恵司【美】中村公彦【共】夏川静江、月丘夢路、田村高廣、小林トシ子、笠智衆、井川邦子、天本英世、浦辺粂子、清川虹子、浪花千栄子、明石潮、小林十九二、高橋豊子
 日本人の3分の1といわれる観客を動員、戦争の記憶がまだ生々しく残る人々の涙をしばった映画史上の名作。多くの作品で高峰を起用した木下は「庶民の愛情をそれとなく体で表現できるスター女優は彼女以外にはいない」と評している。19歳の新米教師から46歳まで見事に演技に演じきった高峰はブルーリボン、毎日映画コンなど各女優賞を独占。キネ旬1位。

4月 5月 6月 GW期間中の5月2日(土)・5月3日(日)はお休みです。期間中の平日は映画『二十四の瞳』を常時上映中。

馬 1941 / 129分 / 東宝 / 白黒 / スタンダード
 【監・脚】山本嘉次郎【撮】春：唐沢弘光、夏&セット：三村明、秋：鈴木博、冬：伊藤武夫【音】北村滋章【装】松山崇【共】藤原鶏太、竹久千恵子、丸山定夫、二葉かほる、沢村貞子、小杉義男、浦川荘司、柳谷寛、馬野都留子
 農家の娘・いねが仔馬に愛情を注ぎ育て上げるがやがて軍馬として売られていく……。撮影は足かけ3年に及び、四人のカメラマンがその個性を活かし担当して東北の四季の風景を捉えた。初めて仔馬の手綱をとる場面で助監督の黒澤明が大声で叱咤し、高峰が泣き出したというエピソードも。高峰の思春期の澆漓とした魅力と共に演技も評価を受けた名作。キネ旬2位。
 画像提供：東宝株式会社

女が階段を上る時 1960 / 111分 / 東宝 / 白黒 / シネスコ
 【監】成瀬巳喜男【脚】菊島隆三【撮】玉井正夫【音】黛敏郎【美】中古智【共】森雅之、団令子、仲代達夫、加東大介、淡島千景、小沢栄太郎、中村錦之助、織田政雄、細川千枝子、山茶花究、多々良純、北川町子、中北千枝子、藤木悠
 銀座のバーの雇われママが借金や男の計算などに翻弄されながら生きる。ホステスの生態に興味を抱く女性観客が多かったといわれる。当時神経性胃潰瘍を病み休養していた高峰の一年半の映画出演で、少しやつれた感じが諦念と哀しみを胸に秘める大人の女の凄麗さを際立たせた。高峰は衣装も担当し、自身がデザインした着物が封切後流行ったという。
 画像提供：東宝株式会社

春の戯れ 1949 / 108分 / BD / 国際放映 / 白黒 / スタンダード
 【監・脚】山本嘉次郎【撮】山崎一雄【音】早坂文雄【美】松山崇【共】宇野重吉、三島雅夫、飯田蝶子、徳川夢声、江川宇礼雄、一の宮あつ子、鳥羽陽之助
 マルセル・パニョールの『マリウス』の翻案で、高峰自身珍しいという恋愛もの。外国への航海の夢を捨てられない恋人のために、その子どもを宿しながら他家に嫁くお花を演じる。山本は宇野と高峰に徹底的に新派調の演技を求めたという。「およそ美男・美女とは縁遠いのにとビックリした高峰だが「出来た映画を観たら宇野さん、やっぱり上手かった」と回想する。
 画像提供：国際放映

名もなく貧しく美しく 1961 / 128分 / 東宝 / 白黒 / シネスコ
 【監・脚】松山善三【撮】玉井正夫【音】林光【美】中古智、狩野健【共】小林桂樹、原泉、草笛光子、沼田曜一、加山雄三、荒木道子、根岸明美、高橋昌也、藤原釜足、織田政雄、中北千枝子、一の宮あつ子、加藤武、南美江
 ろう学校の同窓会で知り合った秋子と道夫が結婚。夫婦が様々な偏見や苦難を乗り越えて生きていく姿が感動を呼ぶ松山善三監督第一作。主演二人が全篇手話で会話するため、画面に字幕が出るスタイルも話題になった。高峰、小林は手話を猛特训して撮影に臨み、見事な演技を見せる。キネ旬5位。毎日映画コン女優主演賞。サンフランシスコ映画祭主演女優賞。
 画像提供：東宝株式会社

雁 1953 / 104分 / 16mm / KADOKAWA / 白黒 / スタンダード
 【監】豊田四郎【原】森鷗外【脚】成沢昌茂【撮】三浦光雄【音】園伊玖磨【美】伊藤憲子、木村威夫【共】芥川比呂志、宇野重吉、東野英治郎、浦辺粂子、飯田蝶子、小田切みき、三宅邦子、山田伸二、田中栄三、町田博子、伊達正
 貧しさのため高利貸に囲われたお玉。やがて、家の前を通る医学生に密かな恋心を抱く。かなわぬ思いを募らせる高峰の陰影ある表情は絶世の美しさ。文芸映画の巨匠・豊田が丹念に撮りあげ、高峰も好きな作品としてあげた名篇。今や伝説となっている、三棟のステージをぶち抜いて作った無縁坂のセットの空前のスケールと精緻さも見どころ。キネ旬8位。
 画像提供：KADOKAWA1953

山河あり 1962 / 127分 / 松竹 / 白黒 / シネスコ
 【監・脚】松山善三【脚】久板栄二郎【撮】楠田浩之【音】木下恵司【美】戸田重昌【共】田村高廣、久我美子、早川保、ミッキー・カーチス、小林桂樹、石濱朗、桑野みゆき、加藤嘉、三井弘次、清水将夫、河野秋武
 大正時代、ハワイに移住した夫婦が必死に働き苦労の末に店を開くが、戦争に翻弄され子供も失う。日米開戦をハワイ移住の日本人の視点で描いているのが興味深い。ワケレに合わせた高峰が唄うシーンも。外貨管理が厳しかった当時、渡航人数が限られていたためハワイ・ロケでは高峰が衣装監督となり、アイロンかけなど裏方仕事もこなしていたという。
 画像提供：松竹株式会社

浮雲 1955 / 124分 / 東宝 / 白黒 / スタンダード
 【監】成瀬巳喜男【原】林芙美子【脚】水木洋子【撮】玉井正夫【音】斎藤一郎【美】中古智【共】森雅之、岡田茉莉子、山形勲、加東大介、金子信雄、木匠マユリ、千石規子、ロイ・ジェームス、村上冬樹、瀬良明、中北千枝子、谷晃
 成瀬・高峰の代表作にして日本映画史上不朽の名作。不実な男とする女との関係を描く。戦後の復興に逆行するように立ち上っていく女の性と哀しみを高峰は見事に体現した。終戦後の落胆を表すために高峰と森は「徹底的に痩せる」ことを課し、お互いの食事を監視し合ったという。本作完成後、高峰は松山善三と結婚。キネ旬1位、女優賞。毎日映画コン女優主演賞。
 画像提供：東宝株式会社

放浪記 1962 / 123分 / 東宝 / 白黒 / シネスコ
 【監】成瀬巳喜男【原】林芙美子【脚】井手俊郎、田中澄江【撮】安本淳【音】古閑裕和【美】中古智【共】田中絹代、宝田明、加東大介、小林桂樹、草笛光子、仲谷昇、伊藤雄之助、多々良純、織田政雄、加藤武、飯田蝶子、文野朋子
 成瀬映画と成群の相性を見せた林芙美子の自伝的小説が原作。成瀬と高峰が「やりたいようにやる」と意気投じて完成させた。高峰が「成瀬先生との作品では一番好き」という本作で、若い頃はきれいに映らないようにカメラと照明に注文を出し、作家になった後半にいい女に見えるという緻密な演技プラン(興味ある方は「わたしの渡世日記」に詳細が)を立てて臨んだ。
 画像提供：東宝株式会社

張込み 1958 / 116分 / 松竹 / 白黒 / シネスコ
 【監】野村芳太郎【原】松本清張【脚】橋本忍【撮】井上靖二【音】黛敏郎【美】逆井清一郎【共】大木実、宮口精二、田村高廣、高千穂ひづる、清水将夫、北林谷多、浦辺粂子、小田切みき、山本和子、藤原釜足、菅井きん、多々良純
 うだるような暑い夏、強盗犯を追う二人の刑事。今は銀行員の後妻となっている犯人のかつての恋人を張り込む。平凡な生活に埋没している女の瞬時の情念をあらわす高峰の演技が圧巻。佐賀で2か月近く撮影、開襟シャツ、ラジオの歌謡番組など昭和の生活風景が貴重。冷房のない列車を乗り継ぐアヴァン・タイトルも当時の距離感を表し効果的。キネ旬8位。
 画像提供：松竹株式会社

恍惚の人 1973 / 102分 / 東宝 / 白黒 / スタンダード
 【監】豊田四郎【原】有吉佐和子【脚】松山善三【撮】岡崎宏三【音】佐藤勝【美】小島基司【共】森繁久彌、田村高廣、乙羽信子、杉葉子、篠ひろ子、市川京子、中村錦之助、吉田日出子、浦辺粂子、野村昭子、若宮大祐、大辻恒郎、伊藤高
 いち早く老人問題を扱ったベストセラー小説が原作。老妻に先立たれた認知症がすむ84歳の茂造。徘徊、失禁、奇行などに息子は顔をしかめ、妻の昭子に面倒を押し付ける。舅の介護に奮闘する昭子に扮した高峰は、森繁(当時60歳)をして「秀子さんの好演技に助けられた」と言わしめた。大雨の中の二人の演技は圧巻。岡崎宏三のカメラも秀逸。キネ旬5位。
 画像提供：TOHO CO.,LTD.

無法松の一生 1958 / 104分 / 東宝 / カラー / シネスコ
 【監・脚】稲垣浩【原】岩下俊作【脚】伊丹万作【撮】山田一夫【音】園伊玖磨【美】植田寛【共】三船敏郎、芥川比呂志、笠智衆、飯田蝶子、宮口精二、田中春男、多々良純、稲葉義男、有島一郎、高堂国典、土屋嘉男、上田吉二郎
 戦中、検閲でカットされた名作を稲垣執念のセルフ・リメイク。ヴェネチア映画祭グランプリを獲得、現地の電報「トリミタナキマシタ」は有名。松五郎が生涯、至誠と無償の愛を捧げた吉岡夫人に高峰は気品ある行まいを見せ遣役。この年、高峰はハリウッド外人記者協会主催「世界映画祭」で「世界で一番人気のあるスター」に選ばれた。キネ旬7位。
 画像提供：東宝株式会社

協賛 / 香川県小豆島町 松山善三・高峰秀子基金

生前高峰秀子さんは「13本」の作品をお気に入りとして挙げておられますが、今回『華岡青洲の妻』が諸事情により上映できないため「12本」とさせていただきます。

高峰秀子
 1924年3月27日、北海道生まれ。29年、見学に行った松竹蒲田撮影所で偶然行われていた『母』の子役オーディションに合格。5歳にして女優業をスタートし、13歳で東宝に移籍、「デコちゃん」の愛称で絶大な人気を博す。以後、新東宝を経てフリーに。54年『二十四の瞳』など4作品の出演により毎日映画コンクール女優主演賞受賞。以降も55年『浮雲』、57年『喜びも悲しみも幾年月』『あらくれ』、61年『名もなく貧しく美しく』で同賞を受賞し、史上最多となる4度の受賞を果たした。79年の『衝動殺人 息子よ』を最後に女優業を引退し、以降は文筆家としても活躍。『私の渡世日記』では日本キリスト教団賞受賞。夫は映画監督・脚本家の松山善三、養女は文筆家の斎藤明美。2010年12月28日、死去、享年86。